

各 位

平成 18 年 4 月 21 日

東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー25F
株 式 会 社 ニ ッ シ ン
代表取締役社長兼執行役員 寄 岡 邦 彦
(東京証券取引所第一部：8571)
問い合わせ責任者：専務取締役兼執行役員 檜 垣 均
T E L : 0 3 - 3 3 4 8 - 2 4 2 4 (代 表)

当社子会社（株式会社アプレック）の業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、当社連結子会社である株式会社アプレック（JASDAQ：8489）の平成 18 年 1 月 26 日に公表した平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）の業績予想を別添資料のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

なお、本件が当社の連結業績に与える影響は軽微であり、平成 18 年 3 月期の通期業績予想への影響はありません。

(別添資料)

- ・株式会社アプレック「平成 18 年 3 月期通期の業績予想の修正に関するお知らせ」

以 上

本プレスリリースに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

(広報室) 03-3348-2417

(IR部) 03-3348-2423

平成 18 年 4 月 21 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア プ レ ッ ク
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 芥 田 浩 史
 (JASDAQ・コード番号：8489)
 問 い 合 せ 先 取 締 役 総 務 部 長 平 松 孝 章
 T E L (093) 533-1115 (代表)

平成 18 年 3 月 期 通 期 の 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 18 年 1 月 26 日に公表いたしました平成 18 年 3 月 期 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日) 通 期 の 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 い た し ま す。

記

1. 平成 18 年 3 月 期 通 期 業 績 予 想 数 値 の 修 正 (平成 17 年 4 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,254	△68	△192
今 回 修 正 予 想 (B)	1,327	△108	△193
増 減 額 (B-A)	73	△40	△1
増 減 率 (%)	5.8	—	—
(ご参考) 前 期 実 績 (平成 17 年 3 月 期 通 期)	1,286	31	12

(注) 経常利益および当期純利益の増減率については、赤字予想となっているため、記載を省略しております。

2. 修正の理由

(1) 営業収益

当第 4 四半期については、平成 17 年 12 月に親会社となった株式会社ニッシンの協力のもと、経営管理体制の強化を図ってまいりました。また、当社が地盤とする九州地域においても景気回復に伴い、資金需要も徐々に上向いてきたことなども加わり、営業貸付金残高が前回予想を大幅に上回ったことなどから、営業収益の予想を上記のように修正いたします。

(2) 経常利益

日本公認会計士協会が平成 18 年 3 月 15 日に公表した「「貸金業の規制等に関する法律」のみなし弁済規定の適用に係る最高裁判決を踏まえた消費者金融会社等における監査上の留意事項について」を踏まえて、平成 18 年 3 月 期 より「利息返還損失引当金」を計上することといたしました。なお、平成 18 年 3 月 期 においては、「利息返還損失引当金」として 50 百万円計上することを見込んでいることから、経常利益の予想を上記のように修正いたします。

(3) 当期純利益

繰延税金資産の回収可能性について、当第 4 四半期の営業収益の拡大から、翌期以降継続した安定収益を見込むことが可能となり、税効果会計の適用可能額が拡大したことから、経常利益は△108 百万円となったものの、当期純利益については、△193 百万円と前回予想数値に対し、小幅な修正に留まる見込みであります。

[業績予想に関する留意事項]

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上